

備前市施策評価シート

【令和2年度作成】

施策名 (小項目)	生涯を通じた健康づくりの推進	決算書 P122-127	(款)4 衛生費 (項)1 保健衛生費 (目)1 保健衛生総務費,2 予防費
コード	04-06-23	作成者	保健課長 森 優 (tel 64-1819)

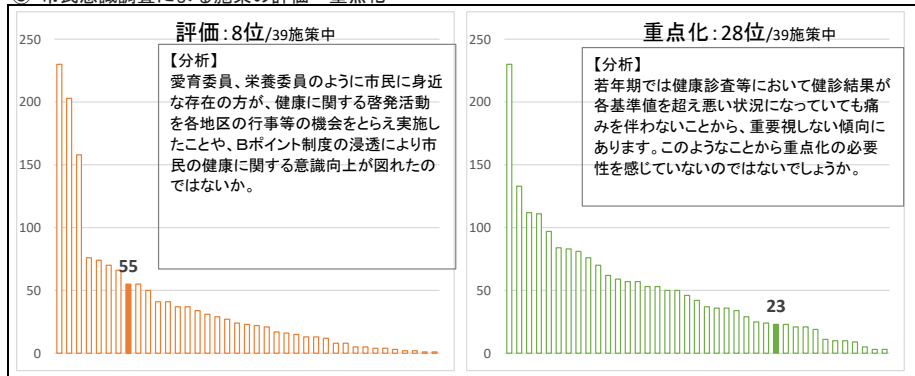
この施策の アピール ポイント	①法律に基づき各種健診や予防接種事業を実施している。市独自事業として、主に言語発達等が気になる就学前の幼児や保護者を対象にマザーズスクール事業を実施している。②検診(健診)受診率の向上のため受診しやすい体制づくりや受診勧奨を行っている。③精神障害者の集いの場としての地域交流サロンを設置している。また、継続的な治療のため通院医療費を給付している。
-----------------------	---

この施策の 平成31年度の 施政方針	生涯を通じた健康づくりの推進につきましては、子どもから高齢者まであらゆる世代の方が心身ともに健康に暮らしていただけるよう、「第2次健康びぜん21・備前市食育推進計画・備前市自殺対策計画」を基に地域の関係機関、愛育委員、栄養委員などと連携して健康づくりや食育などに取り組んでまいります。 また、旧ヘルスバひなせ跡地などを活用し、健康づくりの拠点施設として、市民の健康増進及び地域の活性化を図るための準備を進めてまいります。
--------------------------	---

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	土台となる政策「安全・安心」
	基本計画(中項目)	誰もがいつまでも安心して暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	子どもから高齢者まですべての市民が心身ともに健康に暮らせるようにする。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市では、市民の健康寿命を延ばし、QOL(※)の向上を図るため、「第2次健康びぜん21」及び「第2次備前市食育推進計画」に基づいた保健事業を展開しています。市民が自分の暮らしている地域の健康面での課題を理解し、自らの健康への関心を高め「自分の健康は自分でつくる」ことを目指しています。これをより多様な世代や地域の隅々まで浸透させることが必要となっています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫した母子保健の推進</li> <li>歯科保健の推進(「320運動」の推進と歯に関する健康教育や普及啓発の実施)</li> <li>成人保健の推進</li> <li>精神障がい者の地域生活の支援</li> <li>結核等対策の推進</li> <li>健康づくり・食育の推進</li> </ul>	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値		
		H29	H30				R1	
自分の健康に気をつけている市民の割合【市民意識調査】	目標	%	93.0	93.0	市民意識調査	R2	93.0	
	実績	%		81.3		R4	97.0	
	達成率	%	0.0	87.4		#DIV/0!		
	ベンチマーク							
乳幼児健診受診率	目標	%	94.0	94.0	受診者数/検診対象者数	R2	94.0	
	実績	%	94.9	96.1		R4	94.5	
	達成率	%	101.0	102.2		100.3		
	ベンチマーク							
3歳6カ月児の虫歯罹患率	目標	%	14.0	14.0	虫歯罹患率/受診者数	R2	14.0	
	実績	%	22.5	20.3		R4	13.0	
	達成率	%	62.2	69.0		87.5		
	ベンチマーク							
婦人科検診(乳がん・子宮がん)受診率	目標	%	17.0	17.0	受診者数/対象者数	R2	17.0	
	実績	%	9.7	8.1		R4	20.0	
	達成率	%	57.1	47.6		49.4		
	ベンチマーク							

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
保育園・幼稚園	乳幼児健康診査事業・予防接種事業	要観察児のフォロー、虐待予防
介護福祉課	健康教育事業・健康相談事業	65歳以上の市民の健康づくりは介護予防事業(地域支援)として実施
保健福祉部	Bポイント事業	市民主役の健康づくり

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由	(なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	4	すべての市民が心身ともに健康に暮らせるようにするためには、まず本人の認識と取組みが必要であることから、本指標は妥当である。
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	4	4	子どもから高齢者までの各ライフステージに応じた事業構成であり適当である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	4	乳幼児期の健康サポート体制は、利用しやすさを基準に企画している。また、検診の目標値はハードルが高く厳しいものとするが、一方で医療費の増加に歯止めをかける効果にも期待している。
進行年度(R2H31年度)の取組内容 (課題解決状況)			<ul style="list-style-type: none"> <li>○「第2次健康びぜん21・食育推進計画(改訂版)・備前市自殺対策計画」を基に各事業に取り組む。</li> <li>○「第2期データヘルス計画」に基づき、効果的かつ効率的な生活習慣予防事業等を実施するとともに、6年間の計画の3年目となることから、レセプトデータ及び健診データを基に中間評価を行う。</li> <li>○各種検診について、Bポイント制度の活用、乳幼児健診や学校保健委員会の機会をとらえて、保護者等の若い世代に対し検診受診の啓発に取り組み受診率の向上を図る。</li> <li>○特定保健指導について、電話での勧奨を強化し実施することで指導率の向上を図る。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症のまん延状況により、医療機関等での検診リスクも考慮しながら事業実施する。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症への対応について、県と連携を取りながら感染症予防の啓発に努める。</li> </ul>
翌年度(R31年度)の取組目標			<ul style="list-style-type: none"> <li>○「第2次健康びぜん21・食育推進計画(改訂版)・備前市自殺対策計画」を基に、各事業を実施する。</li> <li>○第2期データヘルス計画の中間評価の結果を踏まえ、効果的かつ効率的な生活習慣予防事業等を実施する。</li> <li>○各種検診について、Bポイント制度の活用、受診しやすい体制づくりや勧奨を行い、受診率の向上を図る。</li> <li>○特定保健指導について、積極的な勧奨を行い、実施率の向上を図る。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症のまん延状況により、医療機関等での検診リスクも考慮しながら事業実施する。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症への対応について、県と連携を取りながら感染症予防の啓発に努める。</li> </ul>
二次評価者コメント			乳幼児期から高齢期まで、各ライフステージを通じて健康に暮らせるまちづくりをめざして、「第2次健康びぜん21・食育推進計画(改訂版)・備前市自殺対策計画」、「第2期データヘルス計画」に基づき事業を実施できていると思います。今後は新型コロナウイルス感染症予防対策にも取り組みながら事業を実施し、Bポイント事業の活用も積極的に進めてください。
役職 氏名	保健福祉部長 真野なぎさ		基本施策への 貢献度 <b>4 やや高い</b>